

現地調査について（報告）

8名の委員の参加のもと、8月20日、下記の機関及び畜産農家を訪問し、施設視察及び関係者との意見交換が行われた。畜産農家の訪問には、栃木県農政部職員も同行し、栃木県の農業の概要等について説明があった。

家畜改良センター視察では、特に肉質官能評価や受精卵分割、経膾採卵技術について活発な意見交換等がなされた。畜産農家視察では特に乳用牛の飼養管理、飼料給与等について、肥育農家視察では特に地域ブランド牛の推進への取組等について活発な意見交換等がなされた。

○ 参加委員（敬称略、順不同）

氏名	所属・役職
近藤 康子	株式会社サントリービヅネスエキスパートお客様ソリューション本部顧問（乳用牛）
引地 聖和	一般社団法人日本乳業協会企画・広報部部長（乳用牛）
宮田 大	北海道農政部生産振興局畜産振興課課長（乳用牛）
石川美知子	有限会社M&I事務所・生活文化研究所代表取締役（肉用牛）
那須真理子	うちのあか牛てっぽこ代表（肉用牛）
笹崎 静夫	株式会社埼玉種畜牧場代表取締役社長（豚）
石澤 直士	株式会社ゼンケイ代表取締役社長（鶏）
小谷あゆみ	フリーアナウンサー、エッセイスト（めん山羊）

注：カッコ内は所属研究会を示す。

○ 視察機関等

1. 独立行政法人家畜改良センター（本所：福島県新白河）

- (1) 家畜改良センターの業務概要の説明
- (2) 肉質官能評価の説明及びそのデモンストレーション
- (3) 受精卵分割手技のデモンストレーション
- (4) 経膾採卵（OPU：Ovum Pick-Up）のデモンストレーション
- (5) ブラウンスイス種の放牧風景の見学

2. 酪農家（K 牧場：栃木県那須塩原市）

K 牧場は、自給飼料に立脚した酪農経営の一貫として、経産牛 1 頭当り 25 a の飼料作物の生産を行い、土地利用型酪農を実践。経産牛 165 頭を飼養し、体型、長命性などの改良に努めている。収益性向上のため受精卵移植技術により和牛子牛の生産も実施。

3. 肥育農家（N 牧場：栃木県那須塩原市）

N 牧場は、和牛 18 頭を肥育し、年間 10 頭を出荷する稲作兼業農家で、稲わらについては 100% 自給。那須和牛振興協議会副会長を務めるなど栃木県のブランド牛「とちぎ和牛」（地域ブランドは「那須和牛」）の県内一貫生産を推進。県内産肥育素牛を導入し東京食肉卸売市場へ出荷。